

# 中海は宝物

未来守りネットワーク活動記

仲間の策略にはまり、私が中海のアマモ再生を目指す組織の代表になることになりました。さあ、ここからが大変です。組織を構築するため、大変な努力を使う日々が続くことになりました。

どんな組織形態がいいのか悩んでいたとき、あるメンバーから「以前に話した特定非営利活動法人(NPO法人)はどうかな」との意見をもらいました。それからNPO法人について調べ、鳥取県に設立方法を問い合わせたり、手続きを打ち合わせたりしました。

定款などの書類作成を進め、理事候補に趣旨説明と参加要請をして、10人の理

## 誕生物語 ③

事を決めました。半ば強制的にお願いした理事も2、3人いたと思います。

約1カ月で慌ただしく申請の準備をし、理事会を開いてNPO法人の名前を決めることになったのですが、これまた決まらず「理事長一任」。

その後、宴席となり、2次会はお決まりのカラオケタイム。皆さんが熱唱し、最後にプロ級と周囲が認める醤油(しょうゆ)屋の社

<3>



昨年9月、長崎県内の研修会で未来守りネットワークの活動報告に耳を傾ける水産関係者。7年前の設立総会もこんな雰囲気だった

## NPO法人化向け奔走

長が「防人の詩(さきもり のうた)」を披露。歌も良かったのですが、その歌詞に感動しました。

「防人の詩(さきもり のうた)」を披露。歌も良かったのですが、その歌詞に感動しました。この意味で「未来守(さきもり)」が更けるまで飲んだことを

覚えていました。

そして2004年1月6日、県にNPO法人未来守りネットワーク認定を申請。発端となった白熱の議論から半年余り、4月1日に認証を受けて未来守りネットワークは誕生し、境港市の夢みなとタワーで盛大に設立式典を執り行いました。

その後、各漁協を回ってアマモ増殖の取り組みを説明し、国や地方行政との意見交換、会員募集活動などを行いました。6月には50人以上が会員登録し「未来守りチャイルドクラブ」も立ち上げ、20人の子どもたちが父母の皆さんの協力を得て活動を始めました。

また、この年に未来守りネットワークのスローガンを「中海再生プロジェクトよみがえれ中海」と決定しました。(未来守りネットワーク理事長・奥森隆夫)